

マメ科 ハギ属

メドハギ (菁萩)

Lespedeza cuneata (Dum.Cours.) G. Don

自生環境

荒れ地、河川敷 など

原産地

日本在来

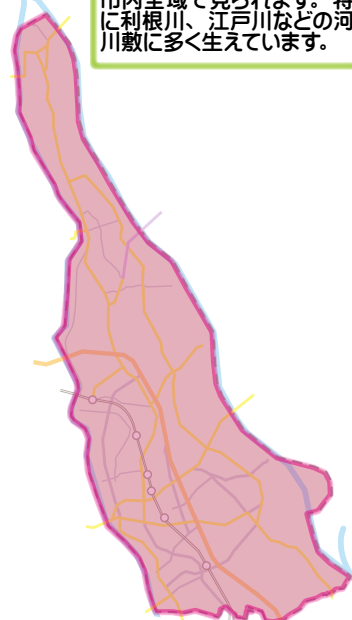
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に育つ野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域で見られます。特に利根川、江戸川などの河川敷に多く生えています。



特徴

- ☆ いわゆる萩の仲間で、草原や荒れ地などに普通に生える多年草です。特に河川敷に多く見られる傾向があります。草丈は 1m 前後になり、茎全体に葉をびっしりとつけます。茎の下のほうは樹木のような質感になることもあります。
- ☆ 夏から秋にかけて、枝いっぱい小さな白い花を咲かせます。花の大きさは 7mm ほどで、白色ですが、中心付近に紫色の斑紋があります。同時に開かない花（閉鎖花）をつけることもあります。果実は平べったく、さやの中にタネが1個できます。
- ☆ 古い時代に、筴（めとぎ）という占いに茎を使ったことから、その名が来ていると言います。筴に関係があるかは不明ですが、目処萩という字を当てることもあります。

キタキチョウが好む

河川敷を歩いていると、黄色いチョウがやたらと目につくことがあります。野田市周辺の場合、そのほとんどがモンキチョウかキタキチョウのどちらかでしょう。それらのうち、キタキチョウの幼虫は、メドハギを含めたハギ類やクサネムなど、マメ科植物を食べて育ちます。メドハギは河川敷の植生を構成する主要な植物のひとつなので、それに伴ってキタキチョウもたくさん生息しています。



紫色の斑紋がある

茎やがくは毛が多い



さやの中に豆（タネ）は1個だけ。熟しても弾けない



夏から秋にかけ、枝いっぱい花を咲かせる



キタキチョウ。幼虫はメドハギなどを食べて育つ



小葉が3枚ずつつく

しょうよう小葉

茎には、葉がびっしり

茎はよく枝分かれする



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

